

令和2年3月31日

(仮称) 呉市立天応義務教育学校校舎等建設工事に伴う  
設計業務に係る公募型プロポーザル 評価講評

(仮称) 呉市立天応義務教育学校校舎等建設工事設計者選定委員会  
委員長 内藤 廣

呉市立天応中学校は、平成30年7月豪雨災害において、体育館・校舎などの主要建物に直接の被害はありませんでしたが、運動場に隣接地からの大量の土砂が流入するなどの被害があり、学校運営ができない状況となっています。

天応地区の住民で構成する「天応地区ワークショップによる復興に向けた提言」における「天応中学校の移転の在り方に関する検討」及び、天応小学校及び中学校のPTAが両校の児童・生徒の保護者を対象に行ったアンケート結果を踏まえ、天応小学校の敷地を利用した小中一貫教育校（義務教育学校）を整備していくことを目指しています。

本プロポーザルにあっては、「(仮称) 呉市立天応義務教育学校校舎等整備基本計画」における基本方針を踏まえ、新しい校舎が、義務教育学校としての機能は勿論のこと、災害時における地域の避難所としての機能を備えたものとして、地域住民にとっても災害復興のシンボルとして相応しいものとなるよう提案を求めました。

参加表明のあった有資格者7者のうち、第一次審査を通過した6者に対し、令和2年3月30日にプレゼンテーションに基づくヒアリング審査を実施し、慎重に議論を重ね、評価点数の順に受注候補者として「香山・あい設計共同体」を、次点候補者として「(株) シーラクスアソシエイツ」を選定しました。

この度選定された設計者の方は、経験豊富で大変素晴らしい設計者です。

今後、地元の皆様は、ワークショップなどを通して様々な形で設計者に接して頂きたいと思えます。設計者にはその場を通して地元の文化や風土を学んでいただき、一方で地元の皆様には設計者と建築設計の内容を知って頂くという今後のプロセスを大切にしてくださいと思えます。

選ばれなかった提案も個性があり、素晴らしいものでした。短期間の募集の中、ご提案いただきありがとうございました。

本来ならこれから施設を活用していく地元の皆様に設計者の提案を見て頂き、発表の内容を直接聞いて頂く公開ヒアリングという形で実施したかったのですが、新型コロナウイルス感染予防対策のため叶いませんでした。

しかしながら、各設計者の提案を受けた後、本選定委員会において、内部委員が専門家である外部委員とディスカッションすることで、委員会自体が認識を深め成長し、今回の建設にとって相応しい設計者を選定できたと感じています。

内部委員の皆様には、この経験を今後活かしていただきたいと思えます。

最後になりますが、本プロポーザル方式を通じて切磋琢磨された全ての設計者に感謝申し上げます、私の講評とさせていただきます。